

## 微生物検査における『前向きな怠惰』を考える

－試験管培地とディスク法を中心に－

◎河内 誠<sup>1)</sup>

JA 愛知厚生連 江南厚生病院<sup>1)</sup>

『前向きな怠惰』という言葉をご存知でしょうか？怠惰というと、どうしてもネガティブな印象を与えてしまいがちですが、前向きな怠惰とは、ただサボりたい、ただラクをしたい、のではなく、ラクをして時間の余裕を作ること、仕事の内容を見直し、見落としをチェックすることができる。そうすることが、自分の、あるいは職場のスキルを磨くことに繋がる、という考え方です。

微生物検査における前向きな怠惰を考える上で、使用可能な材料としてまず考えられるのが、試験管培地とディスク法です。どちらも簡便かつ低コストであることの他に、反応が目で見えることによる分かりやすさも、大きな利点として挙げられるでしょう。

試験管培地は、従来から菌名同定の方法として頻用されてきました。近年、質量分析装置の登場により、菌名同定は劇的に変化しつつあります。しかし試験管培地には、運動能やガス産生能が目で見えるという独自性があります。質量分析装置の苦手分野をカバーするために、試験管培地を使用したい場面もまだまだあるのではないのでしょうか（例：*E.coli* と *Shigella* 属の鑑別）。

ディスク法も、従来から薬剤感受性試験の方法として用いられてきました。近年では、耐性菌の表現型検査に頻用されています。2016年初頭には、カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌（CPE）の新たな検出法として、Carbapenemase Inactivation Method (CIM) が登場しました。MEPM ディスク 1 枚と水さえあれば実施可能なこの方法は、簡便、迅速、高感度、低コストで実施可能かつ分かりやすい CPE 検出法として、急速に普及しました。私

もこの方法に感服し、すぐに自施設への導入を決めた一人です。あくまで私の想像ではありますが、この方法を確立した Zwaluw らは、如何にラクをして CPE を見つけるか、必死に思考（試行）を巡らせたのでしょうか。ラクをすることに必死になる、これこそまさに前向きな怠惰の見本ではないのでしょうか。

微生物検査は元来、休日出勤の非常に多く、人的負担の重い部署です（皆様いつも本当にお疲れ様です）。さらに昨今は、検査室全体の人員不足とコスト削減の波により、微生物検査業務に割ける人員・コスト・時間は圧迫されています。その他にも、医療関連感染患者の増加、多種多様な耐性菌の出現など、微生物検査を取り巻く情勢はより厳しさを増しています。微生物検査技師の負担軽減は急務です。

本セミナーでは、試験管培地やディスク法などを活用することによる業務負担の軽減、コスト削減、検査精度の向上、結果報告の迅速化について考えていきたいと思います。

連絡先：0587-51-3333